

夏を彩る

大分七夕まつり

大分市の夏を彩る「大分七夕まつり」。
3日間にわたってさまざまな催しが行われ、
市内外から多くの人が集まる一大イベントです。
今回の特集では、開催直前の「第38回大分七夕まつり」
初日を飾る府内戦紙ふないまっしを特集。

昭和から平成を駆け抜け、令和の時代を迎えた
府内戦紙の歴史と、伝統を守る人々の思いを紹介します。

8月

2日(金) オープニングセレモニー
第35回「府内戦紙」

3日(土) 第68回七夕飾り付けコンクール最優秀賞表彰式
オープニングパレード
48万人の広場での各種イベント
セタブロードウェイ2019

4日(日) 大分合同新聞花火大会

※大分七夕まつりについて詳しくは、
市報7月15日号に掲載しています。



第4回(S63) 勇壮に練る大分商工会議所青年部の山車。
(提供:大分商工会議所青年部)



第6回(H2) 今ではなじみのある「セイヤ、セイヤ」の
お囃子が生まれた。

府内戦紙の誕生と歴史



第33回(H29) 白の法被に身を包み、本部に手を振る一般踊り隊。



第34回(H30) 平成最後の府内戦紙。一等賞はトキハだった。
華やかな衣装やメイクの踊り隊は見る人を魅了する。



第11回(H7) めんこの形をしたうちわが登場した。

昭和60年、「大分七夕まつり」の市民みこしの中に、ひときわ目立つ山車が1基登場しました。大分商工会議所青年部が大分のまつりをさらに盛り上げようと、青森の「ねぶた」を参考に電飾された山車を制作。これを見た当時の市長が、子どもの頃遊んだ「ばっちゃん(めんこ)」の絵柄のようだと話したことから「府内ばっちゃん」と命名されたといわれています。

最初の山車はたった1基のみでしたが、大分商工会議所青年部や大分市の呼び掛けによって徐々に参加する企業や山車の数が増えていきます。平成元年には12基、「戦紙」という字が採用された平成5年には21基にまで増え、規模も内容も年々大きくなりました。平成10年に「大分七夕まつり」の1日を占める形となり、毎年8月の第一金曜日メイン行事として行われています。

山車による勇壮な練りと踊り隊による華やかな踊りの他にも、平成13年のオープニングセレモニーで披露された子どもたちによるかわいらしい踊りは、多くの観客を笑顔にし「子どもばっちゃん」として恒例になりました。さらに翌年には一般市民参加も始まり、予定枠を大幅に超える応募がありました。

たった1基の山車から始まった「府内戦紙」は現在、九州一円から22万人が集まる大分市の夏の一大イベントとなっています。「どこでんこでんセイヤ、セイヤ!だれでんかかれでんセイヤ、セイヤ!」平成2年に生まれたお囃子と踊りは、30年を経た今でも多くの市民や参加団体によって守り伝えられています。



大分七夕まつりに関する問い合わせ
☎ 大分市まつり振興会事務局(商工労政課内) ☎537-5959

府内戦紙に関する問い合わせ
☎ 大分商工会議所青年部 ☎536-3268